Ⅰ　廿日市市の概要

1　位置及び地勢

本市は、広島県の西部に位置し、大別して沿岸部の廿日市・大野地域、島しょ部の宮島地域、内陸部の佐伯地域、山間部の吉和地域の 4 地域から成り、総面積は 489.42 ㎢ で約 86 %が山林で占められています。広島湾沿岸(瀬戸内海沿岸部)から西中国山地に至る変化に富んだ拡がりを有し、自然環境に恵まれた市です。

瀬戸内海に浮かぶ宮島、沿岸部はなだらかな丘陵とその背後に山地が連なり、極楽寺山等とその尾根が北及び西に連なり大竹市まで続いており、それに沿って平坦地や緩傾斜地が形成されています。

内陸部は、標高 200m 以上で北東から北西にかけて大峯山など 1,000m 級の山々が連なり、内部は 600m～700m の山々が複雑に分布し、これらの間を小瀬川、玖島川が流れ、その流域に平地が形成されていますが、まとまった平坦地は幹線道路沿いに限られています。

山間部の標高は耕地部で平均 580m、広島県、山口県、島根県の県境に位置する冠山をはじめ、十方山などに囲まれ、これらの山々を水源とする支流を合して太田川（総延長 103 km）が中央部を南から北に貫流し、小規模な高原盆地を形成しています。

歴史的にみると、沿岸部は古くから山陽道の要衝に当たり、広島県西部における政治、経済、文化の中心地として発展してきました。

本市においては広域行政、広域合併への取り組みとして平成 15 年 3 月に廿日市市、佐伯町、吉和村が合併し、平成 17 年 11 月には大野町、宮島町と合併し現在に至っています。

平成 21 年 3 月に、新たなまちづくりの指針として第５次廿日市市総合計画を策定し、めざす都市像として「世界遺産を未来につなぎ、多彩な暮らしと文化を育む都市・はつかいち」を掲げています。

市役所の経緯度：東経 132 度 19 分 54 秒
北緯　34 度 20 分 55 秒（世界測地系による）

面　　積：489.42 ㎢

人　　口：117,301 人*

世 帯 数：49,839 世帯*

人 口 密 度：239.7 人/㎢

*人口及び世帯数は平成 27 年 1 月 1 日現在

（図Ⅰ－１）

2　地質

本市の地質は、山地の大部分が花崗岩類岩石（角閃石黒雲母花崗閃緑岩・黒雲母花崗岩）からなっています。これは中生代白亜紀のもので、いわゆる広島型花崗岩とよばれるものです。廿日市地域（極楽寺山）の北方には、角閃石黒雲母花崗閃緑岩を覆った段れき層が分布し、市の天然記念物（昭和50年5月15日）に指定されています。

3　気候

（1）廿日市地域

瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて温暖な気候です。地域の北部と沿岸部によって若干の差異はありますが、気温は比較的温和であり、年間平均気温は 15.6 ℃ です。降水量は年間平均 1,344.6 mm で梅雨期と台風期に多く、冬季は乾燥しますが、温暖な海岸性気候です。

（2）佐伯地域

この地域も瀬戸内海式気候に属しますが、高地にあるため冬季はやや気温が低く、積雪も見られます。年間平均気温は、12.4 ℃ で、このうち1月が最も低く、平均 1.5 ℃ で8月が最も高く、平均 24.2 ℃ となっています。降水量は年間 1,500 ～ 2,300 mm 前後で、このうち梅雨期の6月が最も多く、平均 371 mm、12月が最も少なく、平均 46 mm 程度となっています。

（3）吉和地域

冷涼多雨で、平坦地での平均気温は、11 ℃ 前後、1月には -6 ℃ まで下がり、特に寒いです。また、8月は 24 ℃ 前後と比較的低く、夏季でも過ごしやすいものの、盆地のため霧が発生しやすく、多湿です。降水量は年間平均 1,794 mm で、月平均雨量は 149 mm、梅雨期の雨量は 996 mm で、冬季の積雪は、平坦地で 50 ～ 60 cm に達します。

（4）大野地域

この地域も瀬戸内海式気候に属し、山間部と沿岸部とでは若干差はありますが、年間を通じて温暖な気候で、降水量は梅雨期と台風期が最も多く、年間 1,600 mm 程度です。

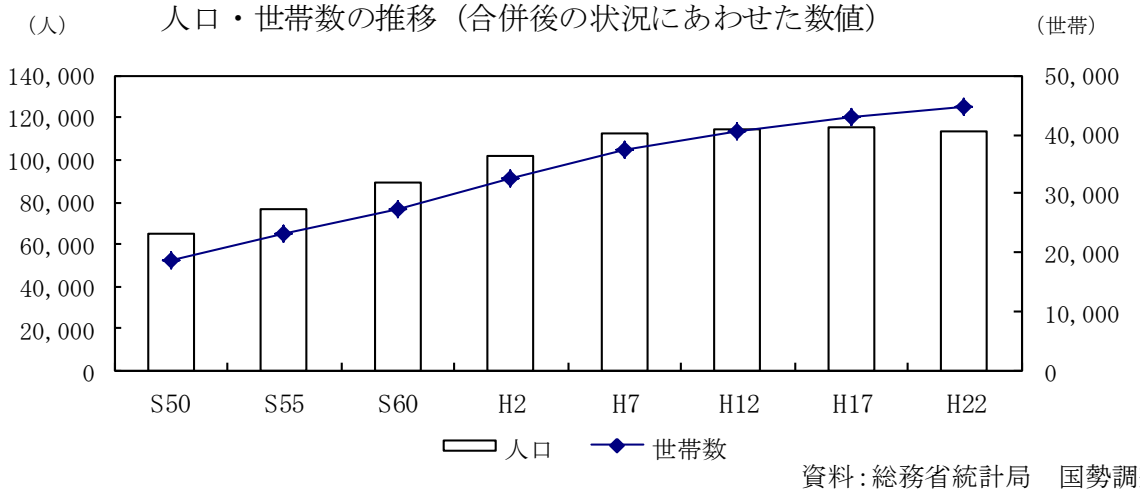
（5）宮島地域

この地域も瀬戸内海式気候に属し、年間を通じて温暖な気候で、降水量は梅雨期と台風期が最も多く年間 1,600 mm 程度あります。

4　人口、世帯数の推移

本市の人口（合併後の人口）は、昭和50年から平成17年の30年間で約1.8倍と増加しています。それに応じて世帯数（合併後の世帯数）も大幅に増え、約2.3倍となっています。特に市内に大規模な団地が開発された昭和50年代以降2度の合併により、人口、世帯数とも急激に伸びています。平成22年の国勢調査では、人口114,038人、世帯数44,644世帯となっています。地域別で見ると、廿日市・大野地域が人口、世帯数とも増加、逆に吉和・宮島地域は減少となっており、また、佐伯地域は人口が減、世帯数は増となっています。

（図Ⅰ－２）



資料：総務省統計局　国勢調査

5　土地利用

本市は、全市域面積が 489.42 ㎢ であり、このうち 23.9%、11,685 ha が都市計画区域に指定され、市街化区域は 2,099.1 haの区域が指定されています。

総面積に対する土地利用の割合は、山林、原野、雑種地30.8%、宅地3.2%、農地2.6%などで、近年の推移では宅地の増加が目立っています。

都市計画区域においては、住宅用地15.2%、商業用地1.7%、工業用地3.3%、用途地域の定めのない地域（市街化調整区域を含む）79.8%の構成となっています。

土地利用状況（地目別面積）は、（表Ⅰ－１）のとおりです。

（表Ⅰ－１）　地目別土地面積

年次	総面積[k ㎡]	田[ha]	畑[ha]	宅地[ha]	山林[ha]	原野[ha]	雑種地[ha]	その他[ha]
H17	388.22	946	227	1068	11699	78	728	24076
H18	489.36	971	325	1521	14065	79	955	31021
H19	489.36	966	322	1531	14037	79	955	31046
H20	489.36	954	320	1539	14023	85	954	31057
H21	489.36	947	324	1543	14051	90	902	31076
H22	489.36	946	323	1547	14052	91	896	31078
H23	489.36	945	325	1549	14045	92	895	31085
H24	489.36	942	325	1547	14087	92	911	31032
H25	489.42	939	325	1556	14089	92	881	31054

資料：課税課

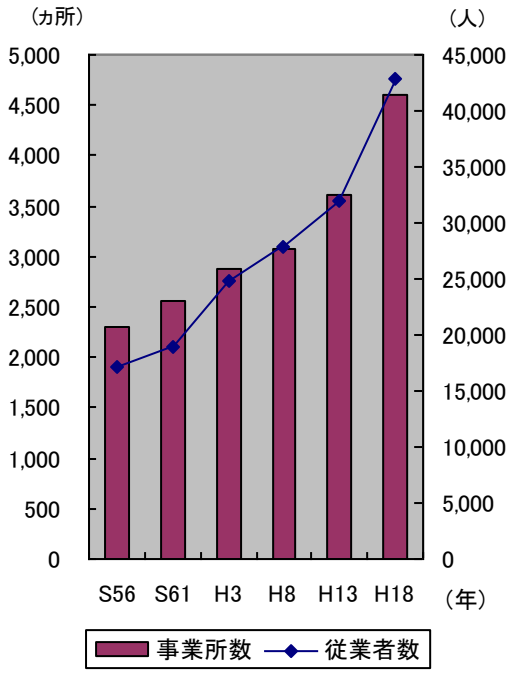
6　産業別人口

（単位：人、％）

区　　分		人　　数	割　　合
就業者数	男	30,360	55.4%
	女	24,433	44.6%
	合　　計	54,793	100.0%
就業人口	第一次産業	1,241	2.3%
	第二次産業	12,764	23.3%
	第三次産業	39,230	71.6%
	分類不能産業	1,558	2.8%
	合　　計	54,793	100.00%

資料：総務省統計局「国勢調査報告（平成22年）」

従業員数･事業所数の推移



産業別事業所数･従業員数

（単位：カ所、人、％）

区　　分	事業所数	割合	従業員数	割合
全 産 業	4,688	100%	44,975	100%
農林漁業	36	0.8%	325	0.8%
鉱業	－	－	－	－
建設業	528	11.3%	2,649	5.9%
製造業	359	7.6%	8,132	18.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	13	0.3%	246	0.6%
情報通信業	29	0.6%	172	0.4%
運輸業	154	3.3%	3,821	8.5%
卸売・小売業	1,147	24.4%	9,141	20.4%
金融・保険業	61	1.3%	459	0.6%
不動産業	383	8.2%	939	2.1%
飲食店,宿泊業	491	10.5%	4,113	9.2%
医療,福祉	351	7.5%	6,253	13.9%
教育,学習支援業	236	5.0%	2,277	5.1%
複合サービス事業	45	0.9%	433	1.0%
サービス業(他に分類されないもの)	824	17.6%	4,908	10.9%
公務(他に分類されないもの)	31	0.7%	1,107	2.5%

資料：総務省統計局「経済センサス-基礎調査」（平成21年2月1日現在）